

トピック — 天候不順の影響が続く果菜類の需給・価格動向について —

本年は、3月の西南暖地における曇天や低温に続き、4月は関東近県も含めて記録的な低温と曇雨天となり、さらにその後も干ばつ、高温、低温、曇雨天が9月までの間に断続的に続いた。

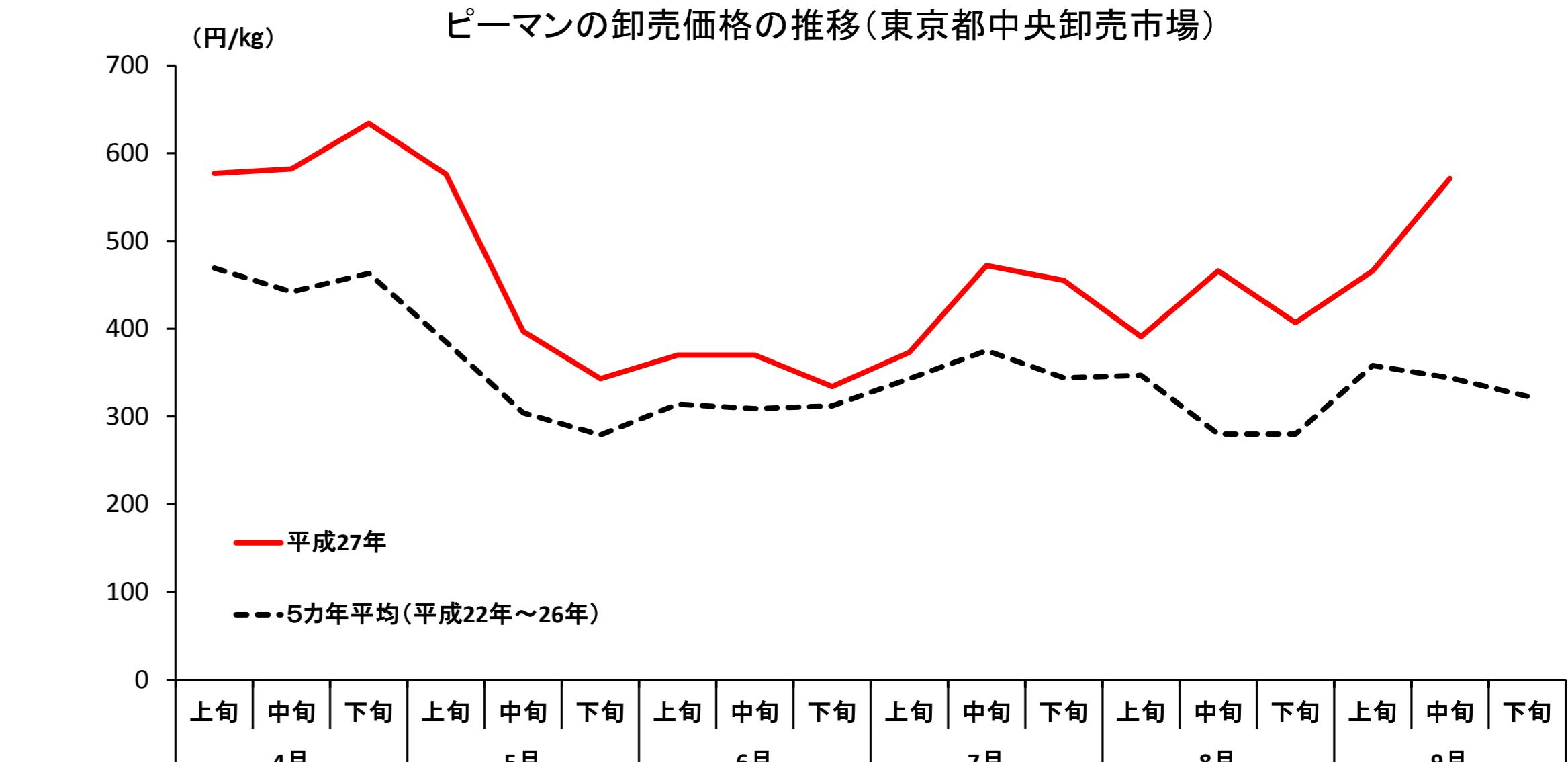
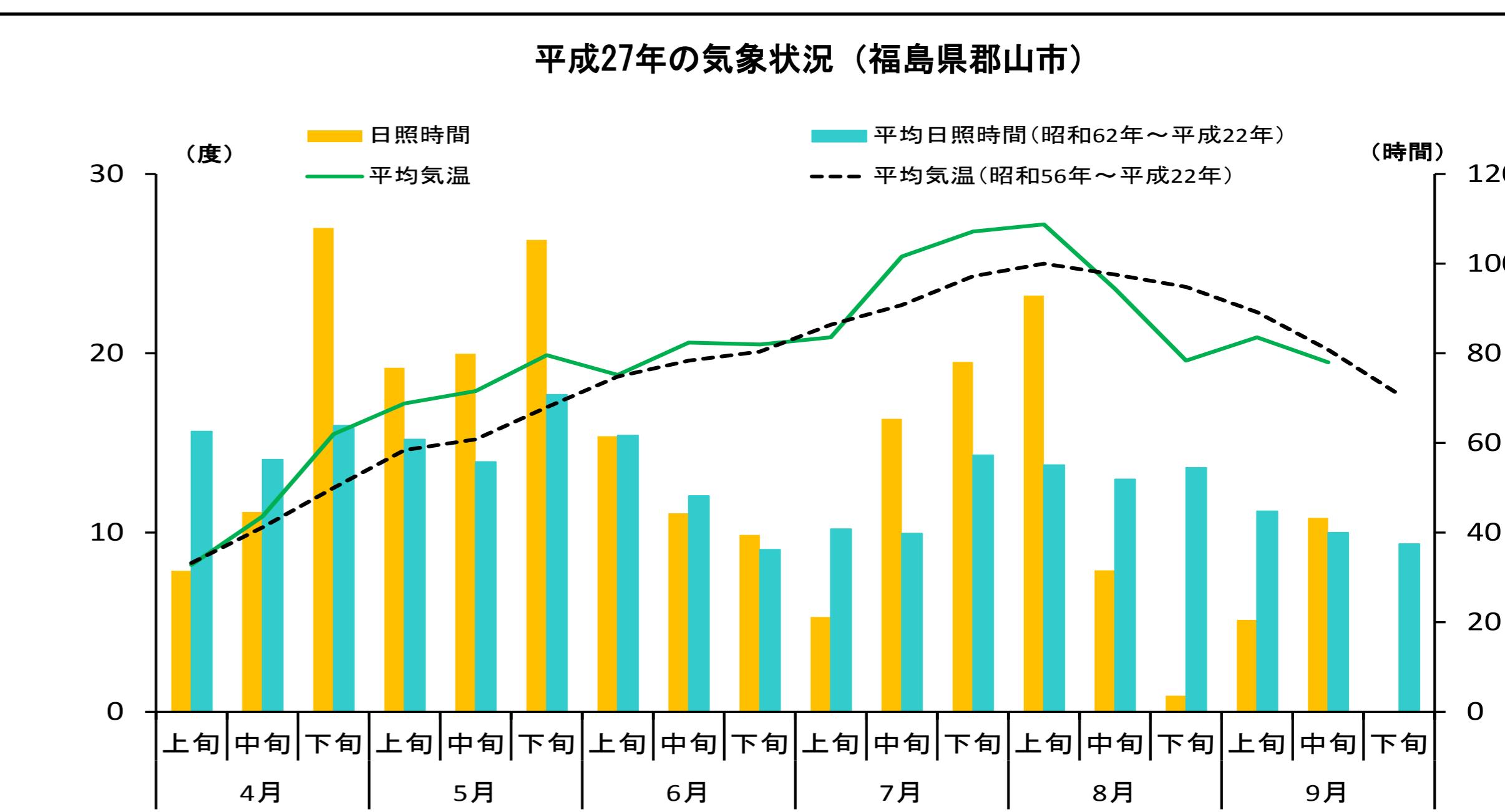
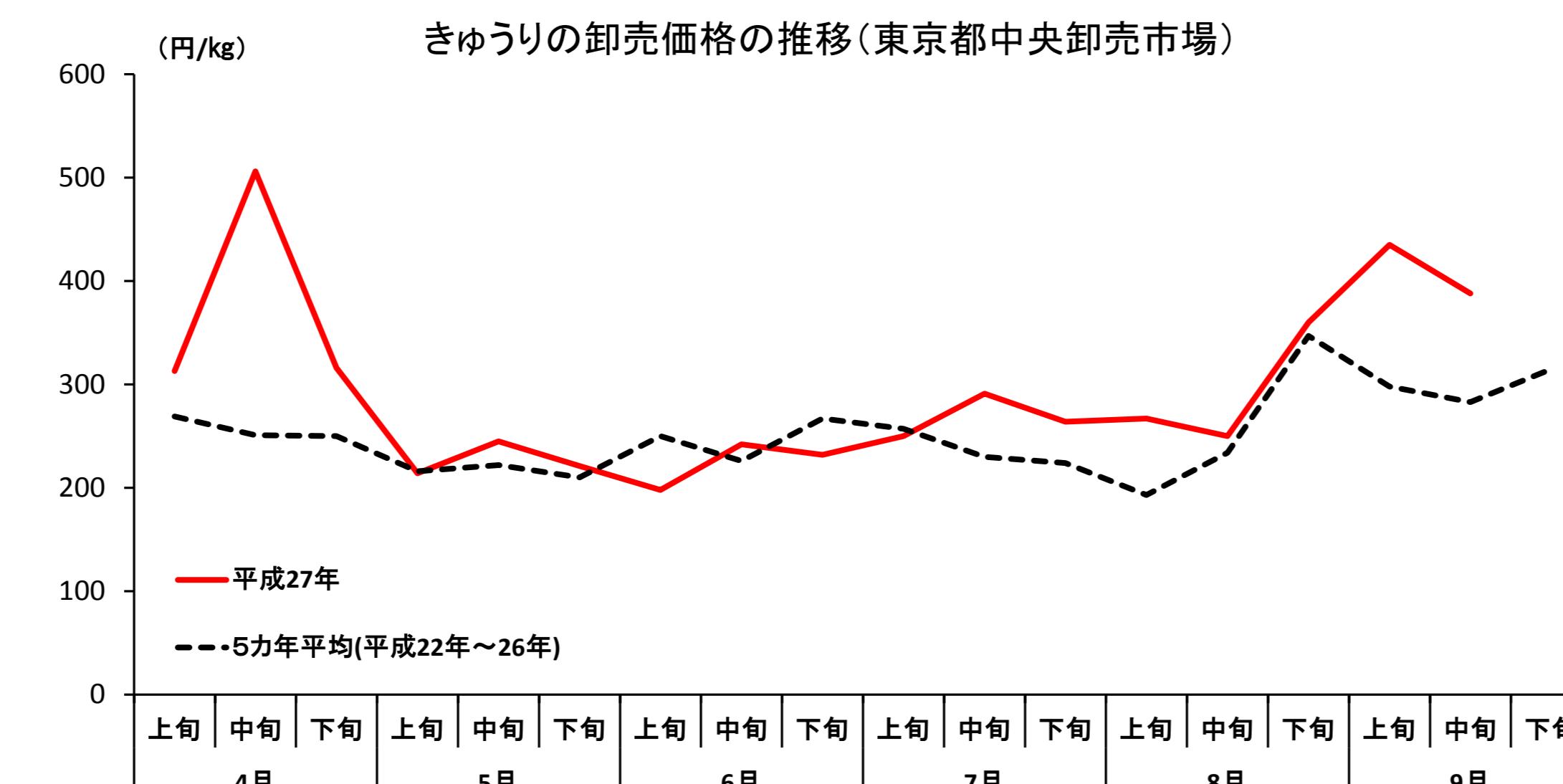
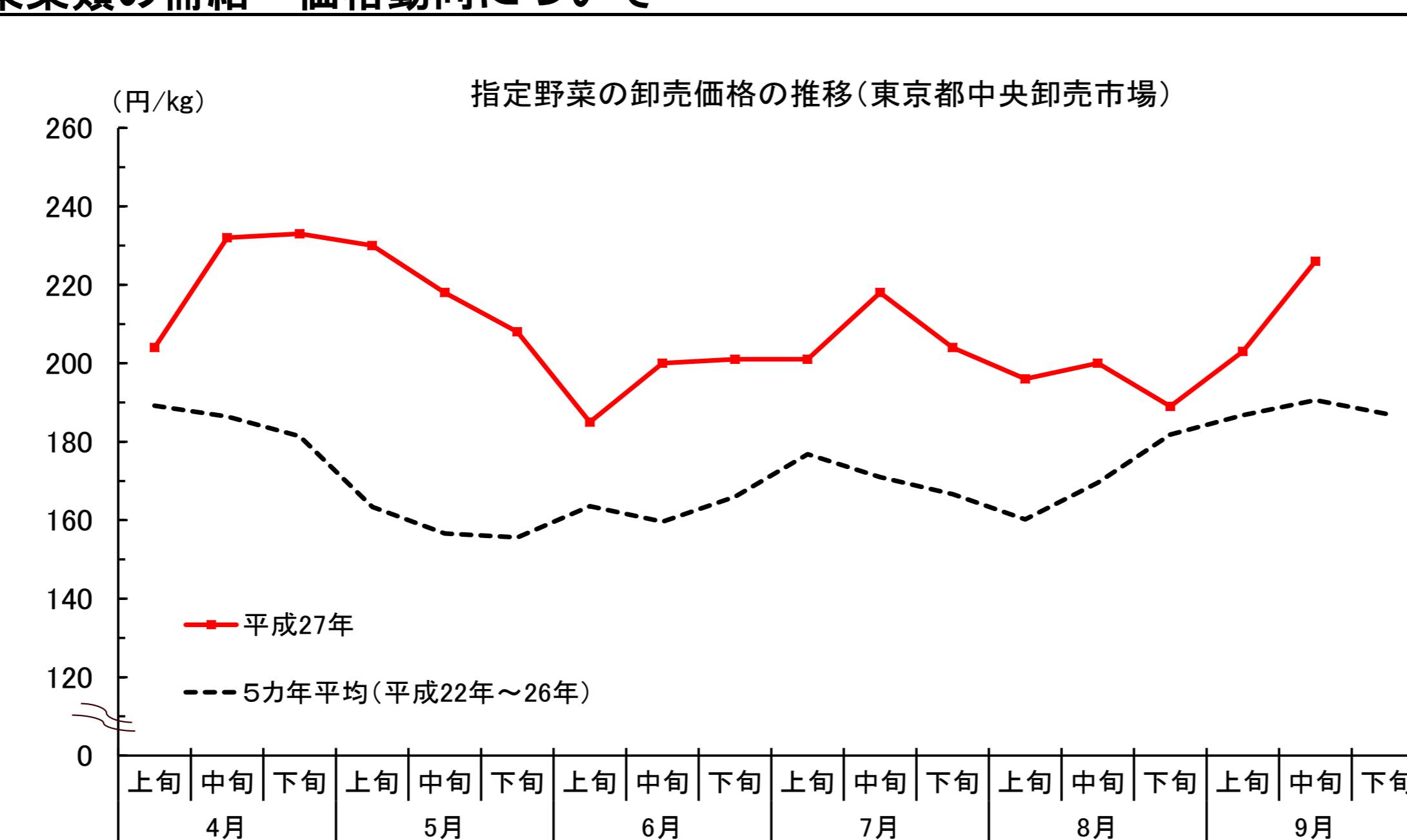
このため、本年4～9月期の指定野菜の卸売価格は、すべての旬で平年を上回って推移しており、これは、記録的な猛暑となつた平成22年以来のことである。

旬別にみると、特に4月中旬から5月上旬に高騰し、その後は一時好天となつたものの、7月中旬から8月中旬にかけての干ばつや高温など、各産地で天候不順となつたことから、引き続き卸売価格は高値で推移した。さらに、8月中旬以降はそれまでの猛暑から一転して低温、曇雨天が9月上旬まで続いたことから、9月上旬以降も卸売価格は堅調に推移している。

このように断続的に続く天候不順の下では、日照不足による草勢低下や着色不良、急激な気温変動に伴ういわゆる花落ち現象など、特に果菜類が影響を受けやすい傾向がみられる。

例えば、きゅうりは4月の天候不順から顕著な高値となり、5月以降は好天により回復傾向となり、概ね平年並みで推移していたものの、8月中旬以降、猛暑から一転した低温曇雨天により、卸売価格は上昇した。ピーマンもきゅうりと同様に、5月以降は4月の高値から一時回復傾向となつたものの、7月には夏場の主産地である東北の産地において、干ばつ等の影響が卸売価格に影響を与えた。8月中旬以降の天候不順も、きゅうり同様に、トマトとなすも含めた果菜類全体に影響を及ぼして卸売価格が上昇した。

このように野菜の中で、果菜類は天候不順が価格上昇を引き起こしやすく、かつその影響が長引く傾向がみられ、そのことが、高値基調が続く最近の指定野菜全体の価格水準にも影響をもたらしているとみられる。野菜産地では、これから夏秋野菜から秋冬野菜へと産地が入れ替わる時期を迎えることから、9月下旬の全国的な好天以降の気象推移や需給・価格動向を注視していく必要がある。



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 青果物情報センター、気象庁)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。

※無断転載禁ず・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。